

静岡福祉大学 学術データポリシー

令和 8 年 1 月 21 日

(目的)

1. 静岡福祉大学は、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、「世代や関係を超えて〈いのちのつながり〉を 尊び、多様性を認め合い、共生を実現していく普遍的な価値を究め、これに取り組む人材を育成する」を使命とする。そのため、静岡福祉大学は、研究と教育に関する学術活動によって産み出された知的成果を蓄積し、それを社会に還元することで人類の福祉と文化の発展および産業の振興を目指す。

本ポリシーは、以上の理念のもと静岡福祉大学における学術データの管理ならびに公開および利活用の原則を定める。

(学術データの定義)

2. 本ポリシーが対象とする学術データは、静岡福祉大学構成員*1 (以下、「大学構成員」)の研究と教育に関する学術活動を通じて収集または生成されたデータをいう。

(注)*1 教職員、非常勤講師、名誉教授、退職教職員、学生

(学術データの管理等)

3. 学術データの管理ならびに公開および利活用の方法は、それを収集または生成した者が、研究倫理指針を尊重のうえ、法令および静岡福祉大学の規程その他これに準ずるものの範囲内ならびに他の者の権利および法的利益を害さない範囲内において、決定することができる。

(大学構成員の責務)

4. 大学構成員は、前項に掲げる範囲内において、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する。

(大学の責務)

5. 静岡福祉大学は、学術データの管理ならびに公開および利活用を支援する環境を大学構成員に提供するものとする。